

飯塚のスマホアプリコンテスト



グランプリに選ばれて喜ぶ九州工業大情報工学部の(左から)堀口慎之介さん、岡室庄悟さん、近藤風沙さん

九工大生がグランプリ

スマートフォン向けアプリ(応用ソフト)の開発を競う「e-ZUKA スマートフォンアプリコンテスト」で、九州工業大情報工学部の学生3人が制作した作品「婚タクト」がグランプリに輝いた。結婚式を盛り上げるさまざまな機能が評価され、地元関係者による初の栄冠となった。(糸山信)

コンテストは飯塚市などが2012年から開催。今年「仕事を楽しくする」など12のテーマに95件の応募があり、書類選考を通過した19作品が21日の最終審査に進んだ。婚タクトは「イベントをもっと魅力的にする」というテーマに基づき、九州工業大4年の岡室庄悟さん(22)、3年の堀口慎之介さん(23)と近藤風沙さん(21)が開発した。招待状に印刷された「QRコード」をアプリで読み取ると、出欠をスマホで登録できる。新郎新婦は出欠情報を簡単に確認でき、スピーチや余興を依頼した相手とアプリ上で打ち合わせしたり、友人との思い出の

結婚式盛り上げ「婚タクト」 最終審査で「ダントツ」評価

写真を集めたりすることも可能だ。参加者は式のプログラムや席順を事前に知ることもでき、式後に写真を全員で共有できる。3人は同大学の学生、院生でつくるサークル「P&D」に所属。P&Dからは3チーム・個人が最終審査に進み、グランプリなど計六つの賞に選ばれた。P

ユニーク作品 相次ぎ発表

審査では、ユニークな作品が相次いで発表された。九工大情報工学部のプログラミング同好会4年の甲斐光心さん(22)と筒井宏亮さん(22)が開発した「名前呼ぶ蔵」は、会議の活性化を狙った。参加者の発言回数を記録することで、議論が停滞した時に発言が最も少ない人が指名される。筒井さんに対して目こ

会議の沈黙打破「名前呼ぶ蔵」

「スマホ落下メール」を開発したのは横浜市の高橋誠さん(28)。スマホの「加速度センサー」機能を使い、落下の10秒後に事前に設定した相手にメールが自動送信される仕組み。体の不自由な要介護者や急病人がベッドから携帯を落として家族へ緊急事態を伝えることなどを想定した。送信までの10秒間に録音した内容を音声メッセージとして添付できるという。審査員からは「介護現場などで使える。ただ、落とすとスマホが壊

緊急事態を通知「落下メール」

「スマホ落下メール」を開発したのは3年の加藤寿太さん(21)は「親子で楽しめる点が好評だった。改善の余地があるのでさらに開発を続けたい」と話した。

れる可能性もある」との感想が聞かれた。専用Googleとスマホの操作を組み合わせた「バーチャルドローイング」は、仮想空間内で絵を描くことができるアプリ。画面に映った家の壁や床に思う存分落書きすることも可能だ。九工大生のサークル「P&D」メンバー5人の作品で、県などが主催する来年1月の「福岡ビジネス・デジタル・コンテツツ賞2016」への推薦が決まった。